

# 「歴史総合・世界史探究の授業実践」

—どうすれば歴史総合は1年で終わるのか?—

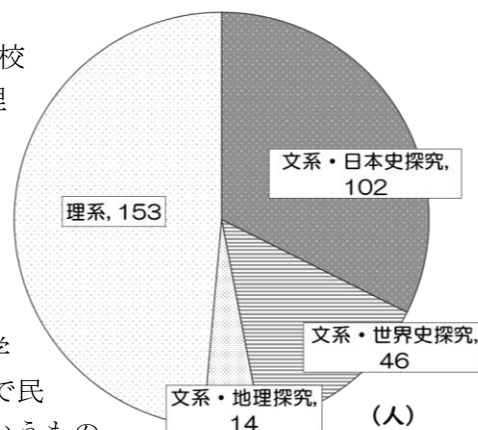
横須賀大津高校 松木 美加

## はじめに

新課程が始まって2年が経ち、素晴らしい授業実践報告が全国各地の研究会で共有されてきた。しかし多くの高校現場で「歴史総合の範囲が終わらなかった」という声があがっているのも実態である。そもそも扱う内容が多すぎる、教科書が過積載であるという問題。旧課程から新課程へ移行したが、何をどう変えたら良いのか分からない。大学入試に対応できるかという不安。新課程や、新科目・歴史総合に対してのさまざまな現場の悩みがあり、その結果として「1年で終わらない」という状況が生まれている。このような課題を克服していくためには、新課程・歴史総合が何を目指しているのか、日本の歴史教育がどう変わろうとしているのかを、考える必要がある。

## 1 歴史総合の目標や構成

筆者の勤務する横須賀大津高校は普通科の学校だ。本校の場合、1年生で歴史総合を履修し、2年生で文系と理系に分かれ、文系の選択科目として日本史探究・世界史探究・地理探究がおかれている。令和5年度2学年の選択状況は、日本史・世界史を選択した生徒は47% (右図)。半数以上の生徒にとって、1年次に学ぶ歴史総合が、最後の歴史の授業となる。全国の多くの高校生にとって、歴史総合が人生最後の歴史の授業となるはずだ。学習指導要領に記載されている歴史総合の目標は、「平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成する、というものだ。学習指導要領の理念を理解したうえで、歴史総合をとおして生徒に何を学んでもらうか、授業を組み立てていく必要がある。



歴史総合は4つの大項目で構成されている。「歴史を教える」とき、授業者は各項目で扱う歴史事象そのものに目が行きがちだが、「歴史から考える」ためには、「と私たち」「現代的な諸課題」が重要になってくる。歴史総合の旨味はここにあると言っても良いだろう。「私たち」の視点と、「現代的な諸課題」つまり現代社会の視点を取り入れて授業をつくれるかが、歴史総合の目標を達成できるかに結びついている。

また、大項目D(4)「現代的な諸課題の形成と展望」は、生徒自身が主題を設定しておこなう探究学習として位置付けられている。いわゆる「歴史＝暗記」の認識を防ぎ、「社会の形成者」としての生徒の育成が期待できる単元である。教員による講義・説明で終わるのではなく、最後の探究学習までやりきりたい。この点も、歴史総合を1年間で終わらせる必要があると、筆者が思うところである。

## 2 新課程の年間計画をたてる

旧課程では、前年度の進度や自身の経験から1年間の授業進度計画をたてることができたが、新課程は前例がないため、新たに進度等を計画する必要がある。各所で紹介される素晴らしい授業実践のなかには、身近なもので問いを設定したオリジナリティの高いものもあり惹かれるところだが、筆者自身の力量では、初めての歴史総合の授業をゼロベースでつくるのは厳しいと考え、教科書をベースに授業を組み立てることにした。次のような手順で年間授業計画を立て、Google スプレッドシートにまとめた。



※右のQRコードから「歴史総合(2022, 松木) 予定表」にアクセス可能。

- ①教科書の各節1時間ずつ授業行うとする。
- ②年間の実質授業時数を数えると、授業時間が足りない傾向にあることが分かる。
- ③節をまとめたり省いたり、扱う授業内容の精選を行って時間数を調整する。

「1節1時間」となると、諸事象の流れや歴史用語を丁寧に説明する時間がほとんど無いことが明らかとなる。そのような授業形態は変える必要があり、大項目・中項目を学習するためには授業で何を扱うべきか、授業内容を精選することが必須となるだろう。

### 3 歴史総合の授業実践紹介

2022年度＝新課程元年に行った歴史総合の実践を紹介した。学習指導要領に則り、教科書をベースに汎用性のある「1つの授業モデルを示す」というのが筆者のねらいの1つでもあった。結果的に毎時間分の授業プリントを作成することになったが、使用する問いや資料の多くは教科書に掲載されているものを用いた。授業では、知識よりも思考・考察・表現する活動を重視して、知識構成型ジグソー法を多く用いた。以下に紹介する①～③の授業はすべて知識構成型ジグソー法によるものである。

#### <実施概要>

- 1学年8クラス、2単位。教員2名で4クラスずつ担当。
- 教科書：『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』山川出版社
- 副教材：『ゼミナール歴史総合』浜島書店（自主学習用のため、授業中は使用せず）

#### ①〇〇化への問い（各1時間）

近代化からグローバル化まで、「〇〇化とは何だろう？」というメイン課題で共通させた。ジグソー活動を通して〇〇化のイメージを生徒に持たせたいので、そのイメージと矛盾するような追加資料を与え、矛盾から問いを形成

D（1）グローバル化への問い	
メイン課題	グローバル化とは何だろう？
資料♣	高度情報通信
資料♥	資源・エネルギーと地球環境
資料♠	多様な人々の共存

させるといふものだ。「グローバル化への問い」では、教科書の該当ページに掲載される7つのテーマから3つを取り上げ、3つのエキスパート資料を作成した。例えば「グローバル化＝多文化共生＝良いこと」という素朴概念をもたせたいので、追加で多国籍ゆえに生じる問題についての資料を与え、グローバル化＝多文化共存の矛盾を見出し、問いを形成させた。

## ②節の内容（各1時間）

メイン課題は基本的に教科書の問いをそのまま使用し、エキスパート資料も教科書掲載の図資料を中心に用いた。筆者自身がエキスパート資料の大きな問いをたてるときに留意していたことは、「固有名詞の使用を避けること」である。

C（3）ファシズムの伸張と共産主義	
メイン課題	なぜファシズムは勢力を伸長し、ヴェルサイユ体制が崩壊したのだろうか？
資料♣	大衆は政治に何を期待するか
資料♥	経済危機に国家はどう対応するか
資料♠	「話し合い」で戦争は防げる？

例えば「ファシズムの伸長と共産主義」のエキスパート資料の問いは、必ずしもファシズム・共産主義にだけ該当する問いではなく、現代社会にも当てはめて考えることができる。歴史を自分事として考えたり、現代社会に結びつけて考えたりさせるためには「歴史事象は過去の固有の出来事」という生徒の認識をもみほぐして、それがどのような性質の出来事なのか、社会にどう影響され、また影響を与えたのか、など概念的な理解が重要になる。そのため、エキスパート資料のメインとなる問いは、限定的な問いではなく普遍的な問いにする、例えば固有名詞の使用を避けるというような工夫が必要だと筆者は考えている。

なお、教科書の内容を全部詰め込もうとすると、考察の軸がぶれたり、生徒がキャパオーバー・消化不良になったりしてしまうので、1時間の授業で何を考えさせたいか、問いや資料の精選が必要となる。

## ③〇〇化と現代的な諸課題（大項目B・C：各1時間）

現代的な諸課題では、各大項目での学習をふまえて、どのような課題につながっているかを考えさせる。例示しているメイン課題は、産業革命の授業で出そうな問いになっているが、これに続くリード文では現代における家政婦の問題を取り上げ、近代化で学んだ諸事象を題材にエキスパート資料を作成した。ただし、教師が設定した課題は限定的で、それだけでは生徒の理解や思考が広がらないため、生徒自身が現代的な諸課題を考察するミニレポートを課題とするなど工夫が必要だと感じた。

B（4）近代化と現代的な諸課題	
メイン課題	産業革命における工業化は、人々に何をもたらしたのだろうか？
資料♣	産業革命により、家庭はどう変化した？
資料♥	日本に家事使用人はいたのか？
資料♠	給料のいい仕事はどこにある？

## ④現代的な諸課題の形成と展望（大項目D：計8時間程度）

4～5人程度のグループをつくり、グループで問いを立てて考察し、発表させた。この単元は1月以降の授業時間を調整して、結果的に8時間程度のグループ活動となった。

<活動の流れ>

1. SDGsの17テーマから1～3つ選ぶ。
2. 現代のニュース記事を1つ取り上げる。
3. 1. と2. を掛け合わせて課題を見出し、問いの形で表現する。
4. 歴史総合で学んだ事象3つを切り口として、問いを考察する。
5. 課題解決の視点・案を考察する

SDGsのテーマと現代ニュースを掛け合わせることで、社会の理想と現実のギャップ＝課

題に気づき、歴史総合で学んだ事象・概念が、課題の形成にどのように関わっているのかを考察させる。SDGs についてはそれ自体に様々な批判もあるが、生徒にとって分かりやすい理想の社会像であると考えた。

以上が実践紹介である。次に成果と課題をまとめる。進捗としては「1年間で終わらせる」ことを達成したことは1つの成果である。最後の探究学習まで行ったことで、浅い部分はあるものの、過去と現代を結びつけて考えようとする視点や態度がより身についたのではないかと感じている。どの単元が印象に残っているかをアンケートで尋ねたところ、「グローバル化と私たち」が半数以上、次いで「国際秩序の変化や大衆化と私たち」が多かった。グローバル化の授業の半分以上は上記④だったので、探究学習が一番印象に残ったのだと思われる。また、大衆化について「大衆が戦争に巻き込まれていった背景や、マスメディアの影響など、現代につながる課題を見出せた」とするコメントがあり、やはり歴史事象そのもの以上に、現代とのつながりや自分事としての歴史にこそ、生徒自身の学びがあるのだと感じた。

一方、授業内容についてはさらなる精選が必要だと感じている。教科書ベースで各回の授業を構成してきたが、それは「教科書のコンテンツをこなしてきた」という感覚がある。筆者の実践では、1つの大項目のなかに様々な問いが乱立している状態で、それぞれの問いが有機的に結びつくには至っていない。より単元構成を構造的にしていくことが必要だ。各回の授業で学んだ視点が、近代化でいうと工業化とは何なのか、国民国家とは何なのかにつながっていき、近代化とは何なのかを考察できる、そんな構造にしていく必要があるだろう。

また、「私たち」という点でも、課題があったと感じている。「現代社会」というのも自分事として捉えきれない生徒が大勢いる。戦争と平和、格差社会、ジェンダー平等など、社会の様々な課題について言葉では理解しているものの、実態を知らなかったり、身近に感じられなかったり、自分事として深く考えられなかったりする。どこまで踏み込むか難しいが、上辺だけの社会学習にならないよう工夫が必要だと感じた。

#### 4 世界史探究の授業実践紹介

紙面の関係もあり、簡略にさせていただく。勤務校では2年と3年の選択科目として3単位ずつ（計6単位）世界史探究が配置されている。旧課程世界史Bより単位数は減っているが、世界史探究でも歴史総合と同様に、学習指導要領に即して年間授業計画をたてた。歴史総合でも世界史探究でも「単元のまとまり」を意識するよう指導し、生徒は歴史学習サイクルを身につけている様子だ。各大項目の流れは以下のとおりである。

##### ①「〇〇への問い」：教科書をベースに問いをたてる

生業、身分・階級などのテーマを軸に、大項目に関する問いを表現する。教科書を活用して、「テーマを軸にする」ことを意識させた。

##### ②章の導入ジグソー：テーマを軸に各章の概観を理解する

歴史総合と異なり、世界史探究では1つの章の範囲が広く、求められる知識量も多い。また、知識を点で理解できても、大項目のなかでの位置づけのように面や立体で理解することは難しく、生徒にとって歴史＝暗記になってしまうのではないか。そのような危惧から、事前に章の学習の見通しをもたせることで、節の内容に対して1つの軸を意識しながら

ら知識を整理できると考え、自己流ではあるが導入ジグソーを取り入れた。

### ③各節の内容：スライド概説とグループ活動

歴史総合と同様に1節1時間を基本とし、内容量に応じて2時間授業とした。授業者による10～15分程度の簡潔な概説のあと、テーマを軸に課題を設定したり、比較分析を通して各王朝・時代・地域などの特質を整理したりする活動を行った。

### ④パフォーマンス課題：大項目のまとめの探究学習

学習指導要領では大項目Eにしか探究学習が取り上げられていない。勤務校は2年間で世界史探究を学習するため、大項目ごとに探究学習を取り入れた。生徒自身が問いを設定し、授業で学んだことや本を読んで調べたことなどから問いについて考察し、生徒自身の考察をまとめる。過去と現代のつながりや、時代や地域の共通性・相違性などを見出す活動となり、歴史総合で行った現代的な諸課題を考察する活動とつなげる一面もある。

まだ途中経過だが、1年間の世界史探究の実践をとおして、模擬試験の成績で「思考・判断・表現」の項目が比較的高い傾向が伺えた。また、パフォーマンス課題は1回目より2回目の方が、社会科の観点において有意義な問いやテーマが見られ、生徒の歴史事象や社会に対する見方・考え方が深まっていることが感じられた。

一方、知識面では不安が残る。模擬試験の成績で「知識・技能」の項目は引く傾向にあった。授業時間内での思考活動の時間を多くとるために、授業者による解説を簡略化・精選しており、説明のなかった用語や事象について、生徒は自ら調べて理解する必要がある。勤務校の世界史選択者でも、全員が大学入試に世界史が必要なわけではなく、どこまで入試対策をするかは悩ましいところである。

また、歴史総合と比べて「自分事としての歴史」というのが、やや希薄になった印象もある。古代から近世は時代的に仕方ないのかもしれないが、生徒の興味関心に頼って学習を進めてきた感がある。「世界の歴史の大きな枠組みを理解する」というのも、今日の国際社会を理解するうえでは必要なスキルだが、鳥瞰しすぎているような感もある。例えば「諸地域の歴史的特質の形成」で文明について学んだあと、歴史総合で学んだ「帝国主義」と結びつけて、「野蛮」といわれる文明について、地域の特質としての文化・文明はどのように扱われるべきか、守られるべきか、といった問いをもとに授業ができたかもしれない。加えて自分たちの地元の文化や生業をどのように見るかなど、「私たち」に近づけられると「自分事としての歴史」の理解が深まり、生徒にとって歴史学習がより意味深いものになるのではないだろうか。

## おわりに

歴史総合と世界史探究の実践紹介をしたが、今回の報告で筆者が特に伝えたいことは、授業の目標と計画である。科目の目標を理解して、それを達成するためにどのような活動が必要なのかを考え、実行するために授業計画をたてる。当たり前の事かもしれないが、新課程を機に改めてその必要性を伝えたい。教員中心の歴史語りではなく、生徒中心の探究学習を意味を持って実現させることが、社会の形成者を育成することにつながるだろう。